

平成24年度 第3回CCCコミュニケーション関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年7月24日(火) 18:30～

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：北根委員（ネット） 阿部委員 鈴木委員
（事務局）井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

1. 教育改善モデル実現に求められる教育力

まず、事務局より、前回委員会でまとめられた「【1】コミュニケーション関係学教員に求められる学識」の「学識」を「専門性」に変更した旨について説明があった。「学識」は、研究能力、教育能力が中心となることや教育姿勢を捉えている内容であることから、「学識」の文言は使用せず「専門性」に改めた。

続いて、コミュニケーション関係学教育における教育改善モデル2案を実現するためには、教員がどのような教育力を身につけていないと実現できないかを整理することにし、前回委員会でまとめられた「コミュニケーション関係学教員に期待される専門性」と文言面・内容面の重複は避け、次のステップで「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」の具体的な提案をするので、あまり抽象的なまとめ方ではなく、次につながる具体性を持ったまとめ方として、委員より作成された案をもとに検討した。

以下に主な意見を列挙する。

コミュニケーション関係学教育における教育改善モデル（その1）について

- ・グループワークそのものをするための手法を心得ていなければならない。
- ・コミュニケーションの役割と仕組みを理解し、主体的な学修の重要性を気づかせるには、グループダイナミックスのようなメソッドを心得ていなければならない。グループダイナミックスを進展させる授業。体験、課題解決型の学修メソッド。
- ・コーチングメソッドのようなものを心得ていなければならない。シナリオを作成するコーチング。学識とともに教育メソッドを持っていることが必要。
- ・協働で同じ目標を設定して作業を進めることに苦手意識を持つ学生が増えているため、メソッドも含め、開発していく力も教える側に求められるのではないかと。
- ・体験型学修の方法を知っていて、それをコントロール、マネジメントできる力が必要。
- ・授業シナリオを開発し、その授業を運営できること。
- ・グループダイナミックスは必要不可欠。教育技法として教員が体得していなければならない。
- ・グループ活動をコーディネートできる力が必要。グループダイナミックスを理解し、授業運営に活用できなければならない。教育メソッドそのもの。

コミュニケーション関係学教育における教育改善モデル（その2）について

- ・ 4年間を通じた教員同士の連携が前提となるため、カリキュラムの位置づけを十分に理解していなければならない。
- ・ 常にかリキュラムの改善のための提案ができること。
- ・ メディアの技術より社会的、文化的なことを理解していなければならない。
- ・ どのような文脈でコミュニケーションが使われ、使うことによってどのようなコミュニケーションが起こるかを理解していなければならない。
- ・ 学生(学ぶ側)の文脈で理解できる授業設計ができること。
- ・ 支援体制を構築できるか。コーディネートする力は大事だが、ダイレクターになって動かしていく力も必要。
- ・ コミュニケーション関係学に関するインパクトのある研究成果を提示し、仕組みを理解していなければならない。

などと意見が出され、「教育改善モデル実現に求められる教育力」として7項目にまとめた。

2. 教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

上記でまとめた「教育改善モデル実現に求められる教育力」の7項目に沿って、FD活動と大学としての課題に分けて検討した。

(1) FD活動

以下の観点で4項目にまとめた。

- ①授業内容と教育方針との整合性
- ②研究報告会への参加で教員同士の教え合い・学び合い
- ③ワークショップの実施
- ④学際的な研究報告会への参加で関連分野の教員や社会の専門家などと意見交流

(2) 大学としての課題

以下の観点で3項目にまとめた。

- ①プラットフォームの整備
- ②ICT 教育手法への教育支援体制の構築
- ③関連分野の教員や社会の専門家と連携するための制度および財政的支援

V. 次回委員会

開催日時：9月14日（金）13：30～

検討事項：学士力の解説について

以上